

# ユネスコによる教育の分類

国際連合教育科学文化機関 UNESCO は、教育(学習)を次の四つに分類しています。

## ① インフォーマル教育

In-formal Education

家庭教育などの無定型的教育。

家庭、職場、地域、市場、図書館、マスメディア等、日常の環境や経験と遊びから教育上の影響を受けることによって、知識や価値観、態度、技術が付随的に伝達される、非組織的な生涯にわたる教育プロセス。

## ② フォーマル教育

Formal Education

学校教育や公教育などの定型的教育。

確立した教育機関において制度化され、学習のレベルと一定の期間とスケジュールとが設定され、フルタイムの学習が与えられる教育システム。主に5歳から25歳くらいまでを対象とすることが多い。

## ③ ノンフォーマル教育

Non-formal Education

社会教育などの非定形的教育。

ある目的をもって『組織』され、正規の学校教育とは別に実施される教育プログラム。成人や子どもが対象となる。

## ④ 継続教育

Cotinuing Edcation

基礎教育終了後に行われる追加教育。

基礎教育後の日常生活や職業上の特化的・専門的なニーズを満たすための教育。

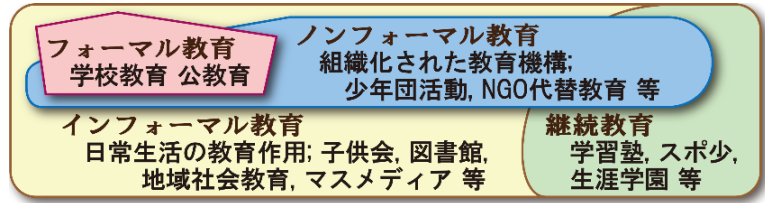
## 教育のうつり変わり

本来、教育や学習は、集団の基盤となる地域社会の生活上の必要から、インフォーマル教育として存在し、年長者が年少の者に必要な知識を伝承するかたちで機能していました。

その後、地域社会の教育機能は、教会や寺院の学校、または寺子屋等が独自に実施する、ノンフォーマル教育に移り変わりました。

そして、20世紀に入ってから、近代国家の政策として、制度化された正規の(フォーマルな)学校が誕生し、フォーマル教育が「教育」の主流となりました。

教育の四つの分類のうち、「フォーマル」「インフォーマル」「ノンフォーマル」の三つは、三位一体のよう、それぞれが補完的関係を持ち、機能することが必要です。



インフォーマル教育を担うべき家庭は、「教育」の一切を学校に依存する傾向を強め、また、核家族化や少子化による子ども達と年長者の接触が薄れ、子どもに労働をさせない環境は地域との関係を薄れさせています。

日常の環境や経験と遊びから知識や価値観、態度、技術といったものが伝達されなくなった反面、マスメディアや電子的バーチャル等からは過剰で不完全な情報を得て、子ども達は、偏った価値観を作りだしてはいないでしょうか。

## ノンフォーマル教育の役目

教育は「教＝知識習得」と「育＝人格形成」とも言われますが、特に「育＝人格形成」の部分の補完がノンフォーマル教育の役目となります。

そのため、ノンフォーマル教育は、不定期であったり単発的な活動ではなく、継続的なプログラムに基づき、累進的な活動であることが必要です。つまり、ノンフォーマル教育は、組織的に体系化され、システム化されていなければなりません。

ノンフォーマル教育のプログラムは、単年度に1回以上のピークを設け、日常的な活動は、そのピークに向けた自己研鑽の積み重ねとします。そしてそのプログラムは、更に累進的に、毎年継続されることも必要です。活動が継続されることによって、初めての子は初めての体験をし、継続してきた子は年齢成長に伴い新たな気づきを持ちます。

